

奈良県立大学情報誌

コモンズ

—学びの共同体—

- ・地域づくり連絡協議会の開催 (1)
- ・地域志向教育研究の実施 (2)
- ・地域 × 都市文化コモンズ→面白い奈良 (3-4)
- ・しあわせの王寺計画
～雪丸ロード整備計画の提案とイベントのサポート～ (5-6)
- ・2014年度 地域創造学プロジェクト実習
奈良低炭素・循環型社会形成プロジェクト (7-8)
- ・「学生地域活動交流キャンプ in 琵琶湖」で
奈良県立大学生がプロジェクト報告 (9)
- ・地域の声—斑鳩町役場 柳井孝一朗さん— (10)
- ・情報コーナー
奈良県立大学〈地(知)の拠点整備事業〉シンポジウム開催のお知らせ (11)

地域づくり連絡協議会の開催

1. 地域づくり連絡協議会

地域づくり連絡協議会とは、奈良県立大学が平成25年度文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択された「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」事業の実施にあたり、地域の声を集約整理し、事業実施関係者との協議を行うために設置された組織です。

協議会の委員は、下表のとおり、本学の地域交流委員会委員長と4コモンズの委員各1名、連携自治体である明日香村、奈良市、桜井市、宇陀市の担当者各1名と地域組織の関係者各1名から構成され、協議会の会長は地域交流委員長が務めることとなっています。

2. 地域との意見交換

平成25年度は平成26年3月27日に開催し、平成26年度は平成26年12月15日に第1回を開催し、事業実施に関する活発な意見交換を行い、課題や方向性について協議しました。

平成25年度の協議会においては、大学側から地(知)の拠点整備事業、コモンズ制大学改革、地(知)の拠点整備事業キックオフ・シンポジウムについて説明し、地域との意見交換を行いました。



平成26年度の協議会においては、大学側から、まず、地(知)の拠点整備事業における研究・教育・社会貢献等の成果目標に関する内部評価の中間報告を行いました。そして、観光創造、都市文化、コミュニティデザイン、地域経済の4コモンズの活動報告を行い、附属図書館から地域創造データベースの始動について報告を行いました。最後に、平成27年3月22日に予定している地(知)の拠点整備事業シンポジウム「地域における多様な教育研究と実践活動の展開ー地(知)の拠点の確立に向けてー」について概要を予告しました。

連携自治体の関係者からは大学側に対し、地域の活性化に結びつく活動の推進、地域サテライトの拠点の強化、地(知)の拠点整備事業費の有効活用、活動の機動性と連続性の維持、地域と大学の信頼関係の構築、連携自治体以外の活動の拡大等の要望が出され、今後も地域と大学がコミュニケーションを密接にとり、事業の効果的な推進に努力することを確認しました。

表 地域づくり連絡協議会委員名簿

大学	地域交流委員会委員長(地域創造学部学部長)
	観光創造・都市文化・コミュニティデザイン・地域経済の各コモンズの委員
連携自治体	明日香村企画政策課長・明日香村商工会経営指導員
	奈良市観光経済部参事・公益社団法人奈良市観光協会専務理事
	桜井市市民協働課長・(一社)うるわしの桜井をつくる会理事
	宇陀市企画部次長企画課長事務取扱・室生地区まちづくり協議会会長

(奈良県立大学学部長 西田 正憲)

地域志向教育研究の実施

地域志向教育研究とは、地(知)の拠点整備事業の趣旨に基づき、奈良県立大学教員が行う地域志向をめざした教育研究です。年度毎に、公募を行い、選考によって採択され、教育研究経費が助成される競争的資金活用制度です。教育研究成果は地域に還元するため、本学主催のシンポジウム、研究発表会等で公表するとともに、本大学が構築する地域創造データベースでも公表することとなっています。平成25年度、平成26年度助成の地域志向教育研究は表－1、2のとおり、それぞれ5件、10件であり、多彩な内容となっています。今後、地域に密着した教育研究に活かされるものと思います。

表－1 平成25年度地域志向教育研究

1	石川 敬之 准教授	「奈良県内のソーシャルビジネスデータベースの構築と分析 －県内ソーシャルビジネスの現状と社会経済システムに対するインパクト－」
2	岡本 健 講師	「地域創造データベースの構築及び運用に向けての教育方法を開発」
3	小松原 尚 教授	「地域志向教育への産業観光ツアー活用のための教材研究」
4	千住 一 准教授	「奈良県立大学生の視点を活用した高知県嶺北地域における観光開発提案事業」
5	高津 融男 准教授	「王寺駅周辺活性化に関する学生提案の教育研究」

表－2 平成26年度地域志向教育研究

1	石本 東生 講師	「地域における伝統的建造物集落の修景事業と観光促進 －信州 小布施のまちづくり、観光政策、ビジネスの事例研究」
2	梅田 直美 講師 佐藤 由美 准教授	「少子高齢化社会に対応する「自律的コミュニティ」形成に向けた教育研究 －住民による自発的取り組みの先進事例研究－」
3	岡井 崇之 講師	「奈良におけるスポーツ・ツーリズムの現状と課題」
4	岡本 健 講師	「コンテンツ作成者としてのメディアリテラシーの効果的な教育方法の研究 －地域創造データベースの構築及び効果的な運用に向けて」
5	神吉 優美 准教授	「過疎地域における「安全で心の安まる集落づくり」の調査研究」
6	城戸 英樹 准教授	「海外フィールドワークの課題と多文化共生社会における民族コミュニティ維持の検証」
7	小松原 尚 教授	「地域の産業を素材とした学修活動のための教材研究」
8	千住 一 准教授	「奈良県立大学生の視点を活用した高知県嶺北地域を目的地とする旅行商品開発」
9	高津 融男 准教授	「地域の魅力や人々の想いを言葉と映像で伝える能力の効果的な教育方法」
10	西田 正憲 教授	「瀬戸内海地域固有の景観資産の新たな評価に関する調査研究」

(注) 順番は氏名五十音順

(奈良県立大学学部長 西田正憲)

地域 × 都市文化コモンズ→面白い奈良

地域創造学部の4つのコモンズの1つ「都市文化コモンズ」において、平成26年度に取り組んだ地域貢献活動の成果を報告します。



■平城京ふもと&うおーく (with 奈良市観光協会)

奈良市観光協会と連携して、平城京跡を中心に写真を撮影しながら歩いて回る女性向けのツアーを企画、実施いたしました。地元フォトグラファーのMIKIさんにも帯同していただき、写真撮影のレクチャーを受けながらのツアーでした。本ツアーは、2014年2月2日に開催した「奈良 Laboratory 平成25年度事業報告会」で学生が発表したツアーアイデアを元にして、本学学生3名(4回生1名、2回生2名)が、奈良市観光協会の協力を得て実現しました。

■「大学生と学ぶ!夏休みの自由研究」ツアー (with 近畿日本鉄道)

本学および船橋商店街を舞台にしたツアーの商品開発を実施しました。お客様は小学生で、ツアータイトルの通り、大学生が自由研究をサポートするものです。本学では学生がフィールドワークを行っており、その手法を小学生の自由研究に応用しました。企画、実施に当たっては近畿日本鉄道に全面的にご協力いただき、本学学生が実施しました。お客様にはご好評をいただきまして、近畿日本鉄道とは連携協定を結ばせていただく予定です。また、次に紹介させていただく奈良信用金庫との連携事業とのコラボツアーも現在検討中です。

■ガイドブック「やまといろ」(with 奈良信用金庫)

奈良町を「色」に注目して紹介したガイドブック「やまといろ」を制作しました。参加学生は3名(3年生2名、2年生1名)。本学学長および岡本健(都市文化コモンズ教員)が指導に当たりました。



ガイドブック「やまといろ」と制作にあたった学生と教員

大学生に向けて奈良の新たな「見方」を提案するもので、既存のガイドブックの分析結果および、京都、和歌山を始めとした近県や全国の大学生へのアンケート調査結果を元に制作。「やまといろ」は正方形のブックレットで「あかいろ」「あおいろ」「きいろ」の三冊に、それぞれ伝統的な和色に合わせて奈良町が紹介されています。たとえば、「あおいろ」であれば「露草色」「百群色」「白

藍色」などがあります。また、企画ページ「ならまちのぞきあな」では、のぞき窓から「ならまち」の様々な風景を紹介。2015年1月23日(金)に開催された「なら観光シンポジウム」(於:東大寺総合文化センター金鐘ホール)では、完成したガイドブックを参加者に配布し、取り組みの詳細を学生が発表しました。

■ゲーム風マップ「ナラクエ」(オリジナル企画)

「ナラクエ」とは、ドット絵で奈良を表現する試みです。これまで奈良に興味のなかった人々(特に若者)に奈良を伝える新感覚のマップを作成しました。本学学生2名(3年生2名)、岡本健(都市文化commons教員)が、堀直人氏(北海道冒険芸術出版:編集者)にご協力をいただき、船橋



「ナラクエ」マップ

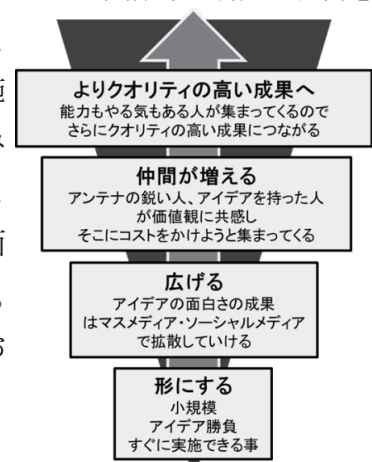
商店街をフィールドワークした成果をマップとして形にしました。「ナラクエ」については、NHK E テレの番組「Good Job! 会社の星」をはじめ、毎日新聞(2014年6月23日朝刊)に掲載されたり、ネットで話題になったりと様々な反響がありました。また、奈良市観光協会のご協力で「グランフロント大阪」で2014年10月18日に行われたイベント「秋はまるごと奈良」において「RPG ゲームで奈良を表現! 『ナラクエ』の挑戦」と題した講演の機会をい

ただき、学生1名と岡本がトークショーを行いました。

こうした反響の結果、現在いくつかの方面から「ナラクエ」にご出資いただき、共に事業を進めていこうという提案をいただいております。中には、既に動き出しているものもあります。若草公民館よりご依頼をいただきまして、多聞城(たもんじょう)跡とその周辺部をドット絵マップとして描き、さらに、それを活用したオリエンテーリング風のゲームイベントを構想中です。現在、学生2名(3年生2名)と教員が企画会議に出席し、実施に向けて打ち合わせを継続中です。

■面白いことをメディアで発信し、さらに面白い活動へと発展

今回は筆者が主に取り組んでいる事例をご紹介しましたが、都市文化commonsでは、様々な取り組みを実施していきます。特に、都市文化commonsで意識しているのは「本格的な研究の成果」と「メディアによる情報発信」の効果的な活用です。当commonsでは、大学の役割である「研究」の成果をしっかりと活かした取り組みを実施しています。また、メディアによる広報の際に重要なのは、取り組み自体のコンセプトが面白いことと、出来上がってくる成果が面白いことです。常識的な成果物ありきで話を進めてしまうのではなく、「面白いアイデア」を、その面白さを損なうことなく実施し、形にします。その際、学生たちは、「地(知)の拠点整備事業」で整備した、PCおよびソフトウェアが設置された「コンテンツ作成室」やデジタルカメラやデジタルビデオカメラ等の機器を活用できます。



アイデアの面白さが感じられる成果は、口コミやソーシャルメディア、マスメディアなどを通じて人々に知られるようになっていきます。現在本学で稼働中の「地域創造データベース」も、こうした発表のプラットフォームとして機能しています。そうすると、アンテナの鋭い人や、さらに面白いアイデアを持っている人が価値観に共感してくれます。こうして、やる気と能力のある方々、学生さんが集まって来て、成果物のクオリティがあがっていく形で各種活動を展開しております。

(都市文化commons 講師 岡本 健)

しあわせの王寺計画

～雪丸ロード整備計画の提案とイベントのサポート～

平成 25 年度より、王寺町役場・王寺町商工会議所・奈良県立大学で「王寺駅周辺活性化研究会」を結成し、王寺町の活性化について検討してきました。奈良県立大学からは、教員（高津・神吉）と高津ゼミ生を中心とする学生たちが活動に参加しています。

平成 25 年度には、県大生が JR 王寺駅と南口バスロータリーをつなぐ久度大橋のリニューアル計画案および中央公民館建替計画案を提案しました。

ここでは平成 26 年度の活動について報告します。



研究会の様子



1. 雪丸ロード整備計画の提案

王寺町が、王寺駅から聖徳太子ゆかりのお寺である達磨寺までを結ぶ道路を「雪丸ロード」と名付けて観光ルートとして整備する計画があり、学生が『県大生が創る雪丸ロード整備計画案』を提案しました。（雪丸とは聖徳太子が飼っていた犬で、達磨寺にお墓があり、現在は王寺町のキャラクターとして活躍しています。全国ゆるきゃらグランプリ 2014 では 11 位になりました。）

現状では、王寺駅から達磨寺までが平凡な道であり、また達磨寺の知名度が広域的にみて高いとは言えないため、達磨寺と雪丸ロードが観光スポットになるためには何が必要か、地元の人たちに愛される道にするためにはどうすればいいのかについて学生たちで話し合いました。その結果、ハード面では、＜看板系＞＜設置系＞＜自然系＞＜奇抜系＞に分類した上で、＜看板系＞では雪丸の肉球型距離表示や雪丸イラストの吊り看板、＜設置系＞では光る雪丸像や雪丸デザインのバス停、＜自然系＞では雪丸パークの整備、＜奇抜系＞では横断歩道にビートルズのジャケット風ペイント（歩くのは雪丸、聖徳太子、小野妹子）等、学生ならではのアイデアを提案しました。また、雪丸ロードの認知度をアップさせるためのスタンプラリーや雪丸アプリの開発等、ソフト面についても提案しました。

2. イベントのサポート

また、王寺町の活性化支援として、学生たちが様々なイベントに参加しました。平成 26 年 6 月 29 日の「OJI 雪丸フェス」では、かき氷の模擬店と音楽ライブを開催しました。模擬店に立ち寄ってくれた人たちを対象にアンケート調査を実施した結果、実施してもらいたいイベントとして「花火大会」「流しそうめん」「フリーマーケット」を求める声が多く聞かれことを受けて、8 月 30 日の「OJI 雪丸フェス in ナイト」で流しそうめんを開催し、整理券がわずか 30 分でなくなるほどの大盛況でした。そして、11 月 22 日の「王寺ミルキーウェイ」では、『県大生が創る雪丸ロード整備計画案』で提案したスタンプラリーを実施し、学生がデザインした雪丸バッジを景品として渡し、好評を得ました。

3. これからの取組と課題

これまでは王寺町から提案を求められてそれに応えるというやり方で進めてきました。今後は、学生自らがプロジェクトを提案し提案していきたいと考えています。

(コミュニティデザインコモンズ 准教授 神吉 優美)

今まで訪れたことがなかった王寺町に関わらせていただいて、王寺町のたくさんの魅力に気づきました。

雪丸ロード整備計画案では、どうすれば町民の方々に愛される道になるのか、学生ならではの提案が求められているのではないかと悩むこともありました。自分たちの意見をまとめ、研究会で提案をし終えた時、非常に大きな達成感がありました。

また、役場の方や町民の方とまち歩きやワークショップをするのは初めてのことで、印象に残っており、貴重な経験をさせていただけたと思っています。

今後、雪丸ロードを通してもっと多くの人に王寺町の魅力に気づいてもらえれば良いと思います。

<観光ルート班>毛馬 美優

約1年間、王寺町の活性に繋がるようにイベント活動を行ってきました。役場や商工会の方からのイベントの要望と、町民の方が望んでいるイベントとの両立を目指す上で、苦労や困難も多かったです。与えられた仕事をこなすのに精一杯で、学生ならではの発想を生かした活動を行うという本来の目的を果たすことが困難に感じた時もありました。

しかし、班員だけでなく先生や他のメンバーのサポートもあり、僕達ならではの特色をもつ活動を行うことができました。イベントの日には、家族で楽しむ方々の姿を見ることができとてもうれしかったです。この活動を行ってきたことで、王寺町の活性化と町民のしあわせに少しでも貢献できたことを誇りに思います。

<イベント班>松浦 成吾

平成26年度活動参加メンバー

<教員>高津融男・神吉優美

<3年生>渡邊健吾・毛馬美優・鈴木亨・西川和志・下田麻央・藤井翔太

松浦成吾・吉田大起・岡村ゆり・石川七瀬・稲本千紗・中村智裕・和田涼太

<2年生>小路永凌・大谷優・井崎加奈子・塚本恭輔・林雪乃・船橋なみえ



吊り看板のデザイン



好評だった流しそうめん



雪丸の肉球型距離表示



スタンプラリーに300人以上が参加

奈良低炭素・循環型社会形成プロジェクト

1. 奈良低炭素社会形成プロジェクトー省エネ活動ー

(1) 奈良市地球温暖化対策地域協議会との連携

私たちは奈良市地球温暖化対策地域協議会(以下、NEW)と連携して、奈良市民の皆様在省エネ活動を普及させるための取り組みを行っています。省エネ活動の支援として、市民グループがNEWと協定を結び、省エネに取り組みます。NEWは啓発活動や情報提供を通じてそれを支援し、最終的にグループ単位での「CO2排出削減量」を買い取るというもの(=市民の省エネを支援する仕組み)を行っています。



「節電所 Times」の取材の様子

企業や様々な場面で取り組まれている省エネですが、家庭部門の省エネが進んでいません。その打開策となるように私たちは活動をしてきました。2011年7月から2012年6月の間に行った、市民の省エネを支援する仕組みが実際に機能するかの社会実験では参加市民39グループ(254世帯)、途中の離脱者もなく、結果として全体でCO2の排出量を62トン削減できました。

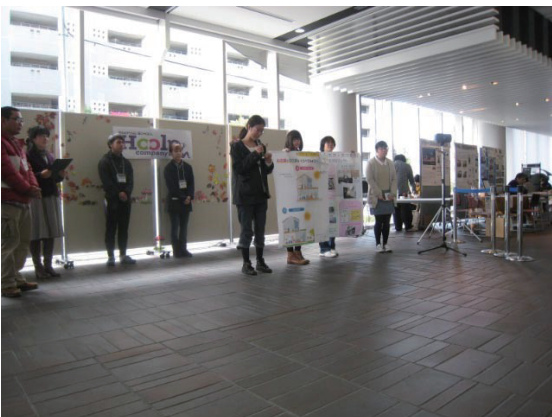
今後の課題は、この仕組みをどうやって広めていくか、また、どうやったら省エネについて皆様にもっと興味を持ってもらえるかという事です。地球の未来のため、私たちの子供・孫の代のため、自分に何が出来るかを日々考えながら活動しています。

今後の課題は、この仕組みをどうやって広めていく

か、また、どうやったら省エネについて皆様にもっと興味を持ってもらえるかという事です。地球の未来のため、私たちの子供・孫の代のため、自分に何が出来るかを日々考えながら活動しています。

(2) 市民節電所活動・Times発行

市民の省エネを支援する仕組みを使った活動を、私たちは「節電所」と呼びます。節電することは新しく発電所を作るほどに効果があるからです。この活動での情報提供や、活動の途中経過の報告として、「節電所Times」という広報誌を作っています。私たちはどんな記事を載せようか、どんな記事が求められているのかを考えて、イベントの様子を書いたり、時には各グループへ取組の取材に行き、その内容を書いたりします。



イベントでのPRの様子

省エネを普及させるため、奈良市で行われている環境系のイベントに参加させて頂くこともあります。パソコンやタブレット端末を使って「うちエコ診断 ワンポイント・アドバイスツール」を用い、家庭の省エネの現状を知り改善策を提案したり、省エネ情報が掲載されているホームページの紹介を行ったり、省エネグッズを展示してその説明を行ったりしています。イベントによっては、省エネクイズやステージでのPR活動を行っています。

(奈良県立大学 3年生 中井翔子)

2. 奈良循環型社会形成プロジェクトーリユースびん普及活動ー

(1) 大和びんリユース推進協議会との連携

大和びんリユース推進協議会は、奈良県内の地方公共団体、市民団体、事業者団体等が連携しリユースびんに関する普及活動(情報発信・調査研究等)(以下、びんリユース)を通して奈良県内の循環型社会形成に寄与する目的のもと、設立された組織です。

私たちは、大和びんリユース推進協議会と連携し、奈良県内のびんリユース促進のための取組を実施しました。

リユースびんとは、従来各地域で利用されていた「一升びん」、「ビールびん」等の容器を廃棄せず、空きびんを回収し、洗浄して繰り返し使用する容器のことを指します。この容器は可能な限り容器包装廃棄物の排出を抑制し、次世代へ資源を引き継ぐとともに、地球環境問題の観点からも温室効果ガスの排出抑制を実現できるものです。

また、このリユースびんの利用する上では、リユースびん入り飲料の安定的な供給と確実な空きびんの回収システムを構築する必要があります。リユースびんの普及活動に携わっている関係者は、このシステムを「びんリユースシステム」と呼び、リユースびんの普及には必要不可欠なシステムであると認識しています。



奈良市環境フェスティバルへの協力

(2) リユースびん入り大和茶の普及と環境省委託事業への協力

大和びんリユース推進協議会の事務局を担当しているNPO団体「World Seed」では、環境省の委託事業を受託し、平成24年度に<リユースびん入り大和茶『と、わ(To WA)』>を開発しました。この商品は、リユースびんの地球環境負荷の低減と奈良県特産の大和茶を用いることにより、地域経済の振興にも一助できるものとして開発されました。現在、奈良市並びに生駒市では、公共施設内で開催される会議等に

においてこの商品の積極的利用を平成25年1月より開始しており、全国的にも先進的な事例として社会的評価を得つつあります。

私たちは、この商品の普及への協力をはじめ、奈良県内のさらなるびんリユースの促進のため、大和びんリユース推進協議会が平成26年度に受託した環境省委託事業に関してアンケート調査の協力を行いました。これを実施することにより、私たちの容器包装廃棄物分野の現状を肌で感じることができ、本分野がいかに関わっている分野なのかを理解することができました。



リユースびんの利用風景

(環境首都創造自治体全国フォーラム 2012 in 生駒)

(NPO団体「World Seed」 中島光)

奈良県立大学生がプロジェクトの活動報告をしました

2014年11月29日(土)～30(日)、滋賀県立大学(滋賀県彦根市)において「近江楽座10周年記念企画 学生地域活動交流キャンプin琵琶湖」が開催されました。

この催しは、各大学において実施されている学生主体の地域活動を学生自身が発表し、お互いに学びや経験を共有しようという目的で開かれた活動報告会です。主催である滋賀県立大学のほか、高知県立大学、福井県立大学、そして本学が参加をし、全部で25のプロジェクトチームの活動内容が発表されました。また、その発表と並行して、各プロジェクトの内容をまとめて一同に紹介する活動ポスター展示もおこなわれました。



学生地域活動交流キャンプ オープニングのもよう▲

「斑鳩ゆかしかるプロジェクト2014」の発表 ▼

「高山竹あかり・広報活動」の発表 ▶



当日は、観光創造コモন্ズの麻生憲一教授、そして、コミュニティデザインコモন্ズの高津融男准教授、神吉優美准教授の引率で、学生12名が滋賀県立大学に赴きました。本学の代表として、活動報告をおこなったのは以下の4つのプロジェクトチームです。

1	斑鳩ゆかしかるプロジェクト2014	麻生憲一ゼミ
2	御杖村寺子屋プロジェクト	麻生憲一ゼミ
3	しあわせの王寺計画・観光ルート班	高津融男ゼミ
	しあわせの王寺計画・イベント班	高津融男ゼミ
4	高山竹あかり・広報活動	高津融男ゼミ

※「しあわせの王寺計画」は、観光ルート班とイベント班の二つに分けて、それぞれ発表をおこないました。従って、本学からは4つのプロジェクトチームの参加で5つの発表報告となっています。

本学の学生にとっては、日頃懸命に取り組んでいるプロジェクトを紹介して、なおかつ他大学の活動内容を詳しく知り、学ぶことができるとても良い機会になったかと思われます。この経験を踏まえて、今後の地域での取り組みが、より充実したものになることを期待します。

本学としては、今後、このような大学間交流にも、より一層力を入れ、積極的に係っていけるよう、学びの環境を整えていきたいと考えています。



活動ポスター展



地域の声

斑鳩町役場 都市建設部 観光産業課
観光商工係長 柳井 孝一朗さん
平成14年4月入庁
関西大学商学部卒業



斑鳩町は、世界文化遺産「法隆寺」などの歴史・文化資源と世界遺産のバッファゾーンとなる矢田丘陵の豊かな自然環境と平野部に広がる田園風景が一体となった景観が、「斑鳩の里」として親しまれています。

これらの貴重な観光資源を活かしながら、行政だけでなく、観光協会や商工会などの観光関連団体等と密に連携を図り、具体的かつ積極的な観光・商工の振興に取り組んでいます。

さて、奈良県立大学様とは、今日まで観光動向調査や観光・商工に関するイベントなどの地域活性化に資する取り組みに積極的なご協力をいただきおまして、平成26年7月に、「包括的な連携協力に関する協定書」を締結することになりました。

特に、最近では、昨年11月に法隆寺かいわいの商店街の活性化に向けて開催された空き家や空き店舗などを活用した「常楽市」に際しても、企画から運営まで主体的に動かれ、地域の方々だけでなく、観光客にも「幸せ」や「満足感」を感じてもらえるよう、熱心に取り組まれ、その熱意が約3千人もの集客につながり、盛大かつ盛況に終えることができました。

これは、まさに官学連携によるまちおこしのモデル事業であり、地域に「笑顔」と「元気」が生まれ、高齢者の生きがい、若者のやりがいにつながることができました。

今後におきましても、新しい発想と成果を重ね、「成長し続ける事業」として継続して開催することに意義があると思っています。

最後になりますが、引き続き、教職員の皆様の知識や経験、そして学生の皆様の柔軟な発想力をお貸しいただきまして、本町と貴校の強い絆と実りある連携へと発展することを期待していますので、今後ともご協力よろしくお願いいたします。

奈良県立大学は、平成 25 年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業」の採択を受け、地域と連携した様々な活動に取り組んでおります。その一環として、この度、平成 26 年度奈良県立大学「地（知）の拠点整備事業」シンポジウムを開催します。地域の方々をはじめ、より多くの方面からのご参加を心よりお待ちしております。

奈良県立大学<地（知）の拠点整備事業>シンポジウム

地域における多様な教育研究と実践活動の展開

—地（知）の拠点の確立に向けて—

日 時：平成 27 年 3 月 22 日（日） 13:00 - 17:15

主 催：奈良県立大学

会 場：奈良県立大学 3 号館 2 階ホール 1 号館 201 教室、301 教室

入場無料／申込不要（定員 100 人）

奈良県立大学は平成 25 年度から文部科学省の地（知）の拠点整備事業（大学 C O C 事業）を開始し、平成 26 年度からは新たな教育システム「学習コモンズ制」を導入することによって、大きく生まれ変わりました。地（知）の拠点整備事業 2 年目にあたり、地域志向教育研究、フィールドワーク、インバウンド誘致、データベース構築など、着実に多様な教育研究と実践活動を展開しています。

【プログラム概要】

1. 開会挨拶 伊藤忠通 奈良県立大学学長
2. 基調講演 「まちの魅力の再発見のしかた」
西村幸夫 東京大学先端科学技術研究センター所長
3. フィールドワーク学生活動発表 奈良県立大学学生
4. パネルディスカッション 「奈良のインバウンドを考える」
パネリスト 林勇一 JTB グローバルマーケティング&トラベル
鷺見哲男 (公社) 奈良市観光協会
下田正寿 飛鳥ニューツーリズム協議会
コーディネーター 麻生憲一 奈良県立大学教授
5. 地域志向教育研究発表 奈良県立大学教員



奈良県立大学

Nara Prefectural University

地域創造学部

〒630-8258 奈良市船橋町 10 番地

Tel. 0742-22-4978 FAX 0742-22-4991

お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前 9 時から午後 5 時まで

<http://www.narapu.ac.jp/>

「観光創造」コモンズ

「都市文化」コモンズ

「コミュニティデザイン」コモンズ

「地域経済」コモンズ

奈良県立大学大学情報誌 Vol.5（2015 年 2 月 27 日発行）

発行：奈良県立大学地域交流センター地域交流室（Tel. 0742-93-5296）